

(5) 東海



東海地域では、景気は緩やかに回復しつつある。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに増加している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

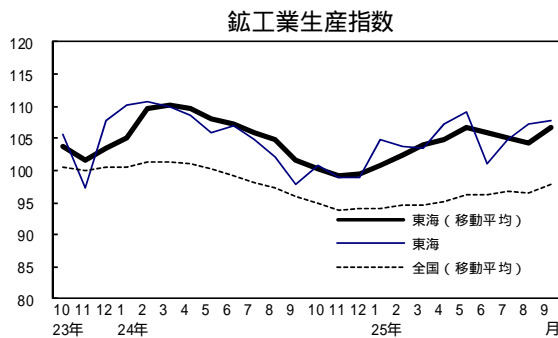
前回調査からの主要変更点

なし。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

輸送機械は、北米向けが堅調に推移したものの、国内向けが伸び悩んだこと等から、高めの水準ではあるものの減少した。はん用・生産用・業務用機械は、主力の金属工作機械で、北米やアジア向けに動きがあるものの、国内向けが伸び悩んでいること等から、高めの水準ではあるものの減少した。電子部品・デバイスは、スマートフォン向けの生産が堅調だったこと等から増加した。化学は、主力の医薬品の低調等が寄与して減少した。プラスチック製品は、自動車向け製品が低調だったこと等から減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4~6 月期	7~9 月期	7月	8月	9月
輸送機械	36.5	0.1	3.1	1.4	0.7	2.1
はん用・生産用・業務用機械	9.9	5.7	0.4	1.7	0.3	4.0
電子部品・デバイス	9.5	6.9	3.9	6.8	6.2	0.1
化学	6.9	2.8	3.3	7.9	7.2	1.9
プラスチック製品	5.9	0.5	0.3	2.3	4.1	5.9
鉱工業	100.0	1.7	0.9	3.7	2.4	0.6

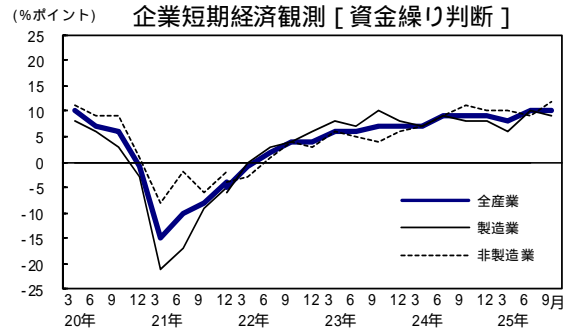
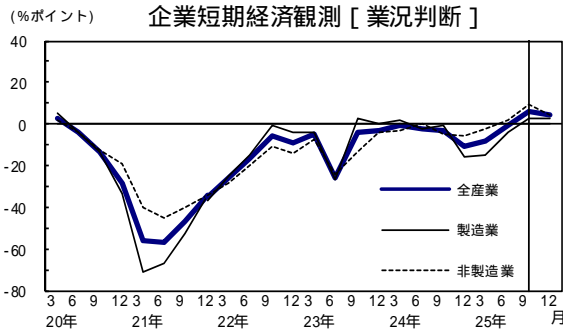
(備考) 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。

2. 全国及び東海の太線は後方3か月移動平均。

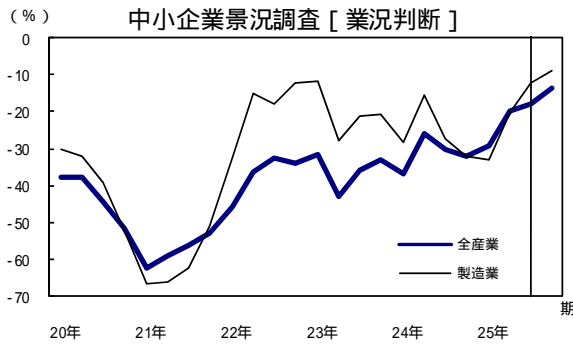
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超に転じており、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年12月は予測。21年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。21年12月は新・旧基準を併記。

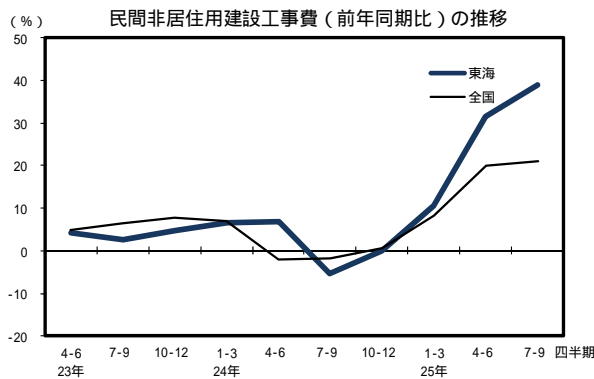


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。中部地区。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「3か月前と比べて受注ペースは好調を維持している。アメリカ市場が順調であることと、最近ASEAN向け商品が出てきているためである(輸送用機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	24年度実績	25年度計画
全産業	11.8	7.2(7.9)
製造業	12.7	12.6(14.3)
非製造業	11.0	2.5(2.4)

(備考) 1.()は前回(6月)調査比修正率。

2. 22年度以降は、計画はリース会計対応ベース。

(5) 東海

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに増加している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比0.7%減、8月は同0.1%減、9月は同1.4%増となった。

大型小売店販売額

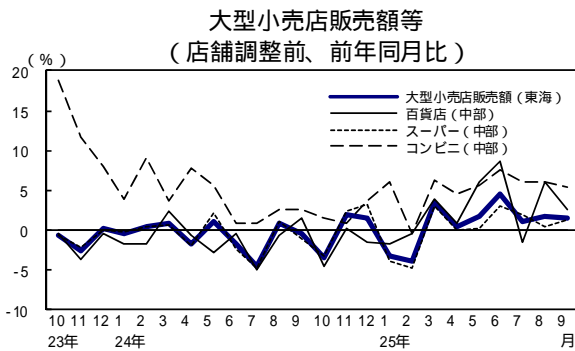
百貨店は、7月は、高額商品が引き続き好調であったものの、夏のセール開始日の前月前倒しの影響があったこと等から前年を下回った。8月、9月は、高額商品が引き続き好調であったこと等から前年を上回った。

スーパーは、気温が高く推移したことから涼味商材に動きがみられたことや出店効果があったこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

東海地域の家計動向関連DIは、49.5となり前月に対し横ばいとなった。

「秋物衣料は、気温の高さや台風など気候の影響を大きく受けて全般に不調に推移している。高額品の需要も前年を上回ってはいるが、一時期のような伸びが感じられなくなっている(百貨店)」など、「変わらない」とする回答がみられた。

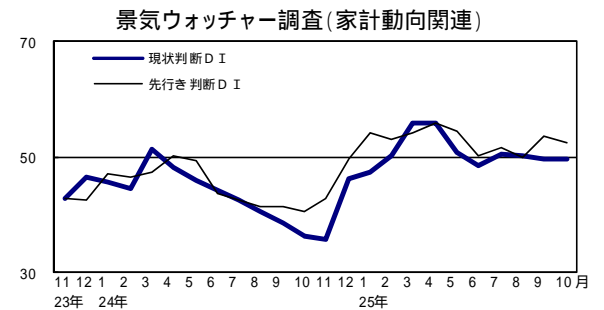
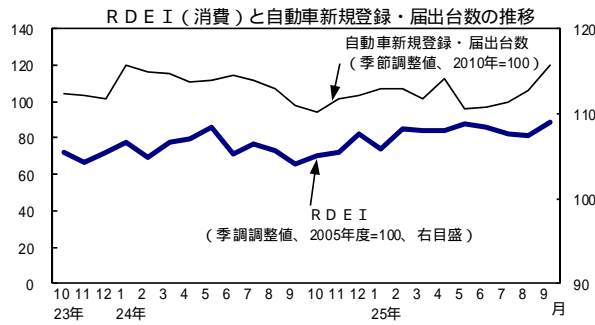


	25年7-9月	25年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.3	0.7	0.1	1.4
大型小売店(*2)	1.5	1.1	1.8	1.6
百貨店(*2)	1.9	1.5	6.0	2.7
スーパー(*2)	1.3	2.0	0.4	1.4
コンビニ(*2)	5.9	6.0	6.1	5.4
乗用車(*3)	2.6	9.8	2.8	21.8
(季節調整値)(*3)	6.4	3.0	6.8	12.4

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%) 7 - 9月、9月は速報値。百貨店、スーパー、コンビニは、中部。

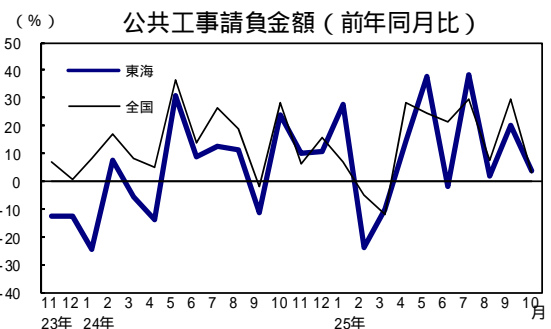
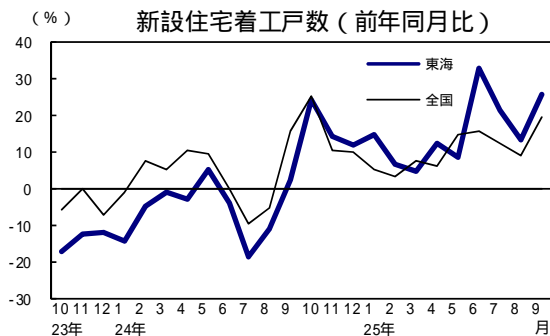
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は25年度累計で見ると前年度を上回っている。

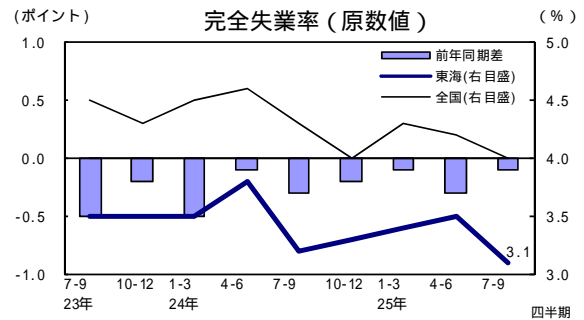
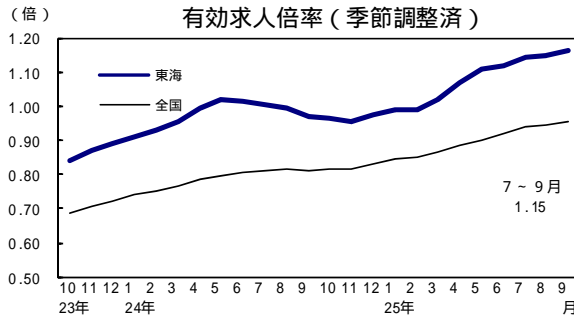


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月)[雇用関連(現状)]

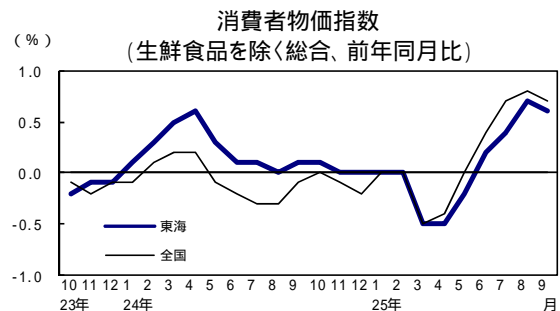
「求人数は増加しており、製造業でもわずかではあるが増加を続けている(職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	企業倒産 (件、億円、%)				
	24年10-12月	25年1-3月	4-6月	7-9月	25年10月
倒産件数	310	336	369	326	137
(前年比)	9.6	6.9	3.7	12.1	38.4
負債総額	541	780	665	616	185
(前年比)	46.2	14.8	17.4	11.8	5.6



景気ウォッチャー調査 (10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・消費税増税が決まり、ハイブリッド車の駆け込み需要が起きている。ハイブリッド車は新車受注に占める割合が50%を超え、受注先行の形で好調に推移している(乗用車販売店)

<先行き>

・本年度末まで大手自動車メーカー各社の生産台数計画は増加が見込まれている。増産等にとともに求人数も比例し、引き続き回復に向かうと考える(人材派遣会社)

景気ウォッチャー調査
(合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

